

奥能登原木しいたけ 「のとてまい」・「のと115」だより

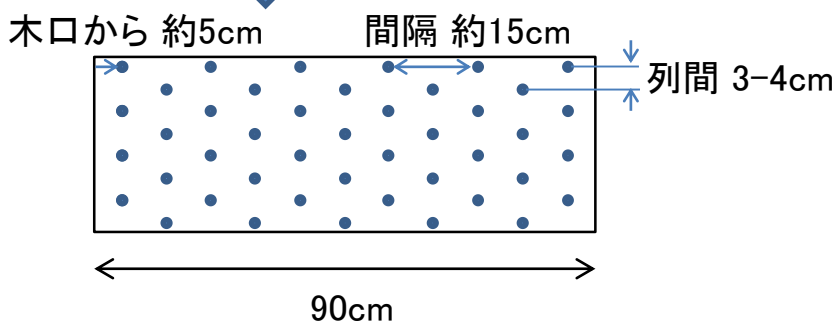
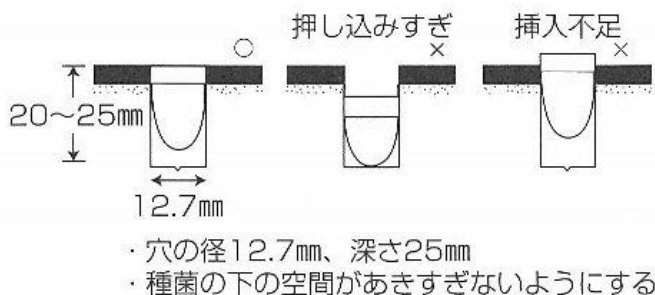
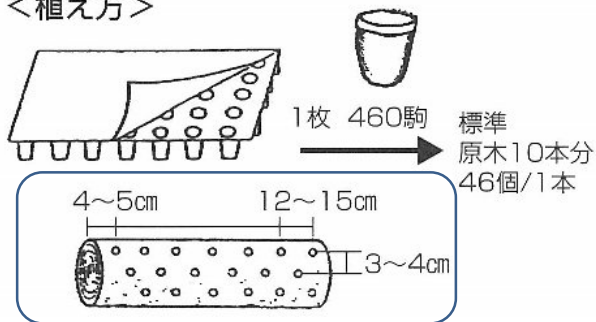
令和2年度第8号
(通巻20号)
令和3年1月25日発行

<発行者> 奥能登原木しいたけ活性化協議会、石川県農林総合研究センター

植菌時の注意点

- ・しいたけ菌は、原木の縦方向には成長しやすいので間隔は広くてもかまいませんが、円周方向には伸びにくいので列間は3-4cmを保つよう心がけてください。
- ・直径10cmの原木で、植菌数45個程度が標準です(下図参照)。
- ・形成菌では、穴の深さは25mmです。深くなるとほだ木は良くなりますが、一年目の発生に悪い影響がでます。作業の合間に必ず点検してください。
- ・穴に形成菌を押し込みすぎると発生しなくなります。押し込みすぎに注意してください。

<植え方>



【例】直径10cmの原木に
6-5の千鳥で植菌した
場合(44駒)

植菌後の管理(寒冷時期)

- ・種菌が乾燥しないように注意します。
- ・棒積みにして、寒冷期はポリ、ビニール、ブルーシートなどで覆います。
- ★ハウス内や、外気温が上昇してくる時期は、被覆内の温度が25℃を超えないように注意してください。
- ★3週間後くらいに被覆材の内側に露がなくなれば一回しっかりと散水します。ほだ木樹皮の乾きと同時に種菌の水分もなくなるので要注意です(屋外の場合はもう少し時間がかかります。ときどき被覆材をめくって確認してください)。



シート内
の結露

※裏面に続きます。

ハウスの管理

温度管理

- ・大寒のこの時期は気温が低いため、ハウス内の温度を保つようにします。
- ・ハウス内は10~12℃程度とし、朝の換気はしっかり行います。
- ・袋をかけておくと、温度が上がりやすいので成長しやすくなります。

散水について

ほだ木の状態と、目的によって散水方法が異なります。ご自身のほだ木にあった散水を行って、春子の収穫を行ってください。

収穫が一段落し、芽切りを促す場合(1年ほだ木の場合)

- ・しいたけが芽を作るためには水分と温度が必要です。ハウス内にいれたほだ木は2ヶ月経過しています。原基(芽のもと)がある孔は水分が不足してくるころです。
- ・ほだ木全体がしっとり濡れるくらいの散水を、乾きやすいハウスは毎日、そうでないところは2日に一回程度継続します。
- ・散水は午前中の早いうち、換気する時に実施します。
- ・ハウスから外に出して雪や雨にあてても良いです。
- ★ハウス内に朝もやがかかり、天井や内側ビニールに水滴がたまる環境が大事です(右写真)。



内側に結露したハウス

しいたけがひび割れて大きならない場合

- ・ハウスの入口や側面といった風通しの良い位置のしいたけは乾燥しやすく、大きく成長させるには散水を行います。
- ・しいたけにかかるよう15分から30分程度散水します。雨子にならないよう注意してください。乾きやすいハウスでは毎日散水が必要です。



傘の色が薄くなってきたら
渴いてきた合図



散水前



散水後

協議会で助成している散水システムには、いろいろなノズルが取り付け可能です。ハウス内で水が飛びすぎる場合にはノズルを変えてみてください。能登駐在では霧状のもの、粒状のものなど使用していますのでご相談ください。